

企画提案書概要版1

地域の歴史と記憶 コミュニティの息吹とともに 未来を担う子どもたちを育む 交流と成長の9年間で過ごす学び舎

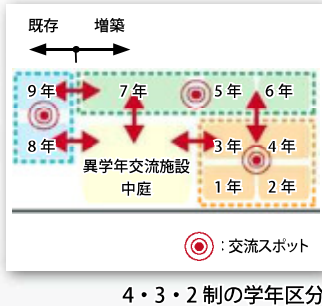
一年一年を大切にする 成長を支える学習の場

■ 発達段階に即した系統性ある教育環境

- ・9年間で4・3・2の段階に区分し、各年代に適した学習環境を整えます。
- ・少人数学習や個別指導、グループや学年全体での学習に対応可能とします。

■ 学年の垣根が低い連続性のある学校

- ・異学年交流施設と中庭を中心に、交流を通して各学年がつながります。
- ・校舎内 ICT 環境を整備し、発表・集会に適した交流スポットをちりばめます。



4・3・2制の学年区分

「やしろのにわ」が新旧の校舎をつなぎシンボルとなる

■ 「やしろのにわ」を中心とした一体感のある校舎づくり

- ・勾配屋根の交流棟・屋内運動場棟と「やしろのにわ」が新旧校舎をつなぎ、回遊を生みます。
- ・交流棟と屋内運動場の木ルバー意匠が社らしいぬくもりを表現します。

■ 既存正門を活かし動線を明快に

- ・バスロータリーと駐輪場を正門脇に集約する明快な生徒動線とします。
- ・登下校の様子を把握できる位置に職員室を設置します。



「やしろのにわ」を中心とした回遊型校舎

今の学習環境を維持したまま 新しい学校をつくります

■ 既存中学校をそのまま残す施設更新

- ・既存中学校の校舎と運動場をそのまま残す、無駄のない計画とします。
- ・現状の学習環境を最大限維持します。

■ カセ池埋立地の経済的な活用策

- ・カセ池埋立て部には小グラウンドを配置し、建物を作らない計画とします。
- ・小グラウンドを低く設定し、搬入土量を抑え、事業費と工期を圧縮します。



カセ池の活用イメージ

仮使用期間の子どもたちの学習環境も万全に

■ 現中学校の授業を継続しながら工事を進める仮移転計画

- ・増築校舎完成後、3階を7・8・9年生が仮使用し、授業開始します。
- ・特別教室や図書室は小学校エリアの諸室を利用します。

■ 既存改修工事期間中の学習環境の確保

- ・仮使用中の既存校舎改修は室内作業を主体とし、学習環境を確保します。
- ・仮使用中「みんなのホール」に仮設職員室を設置し、生徒を見守れる計画とします。



改修工事期間の仮使用



新小中一貫校の交流棟（昇降口）外観イメージ



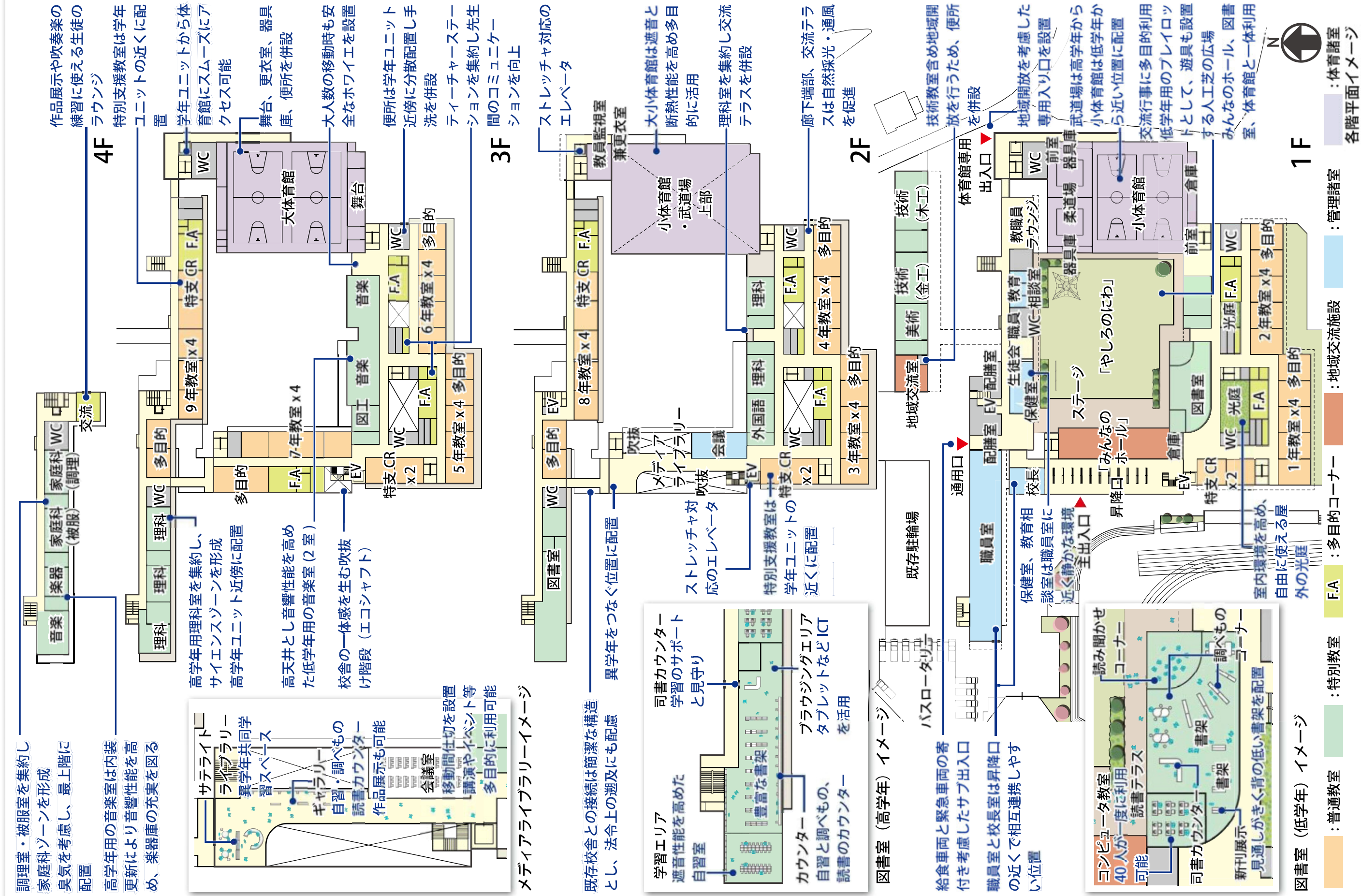
地域にシンボルとなる交流広場「やしろのにわ」



いつも賑わいがあふれる「みんなのホール」



【施設概要】		
既存校舎棟	RC造 地上4階建て	5,676㎡
増築校舎棟	RC造 地上3階建て	6,854㎡
交流棟	S造 地上3階建て	1,981㎡
屋内運動場棟	S造 地上2階建て	3,851㎡
プール上屋	RC造 平屋建て	180㎡



ふるさとの景色を見て育つ、多彩な交流を通じて自立した人間力を育てる

地域の連携を深める「やしろのにわ」

■ 地域に開かれた小中一貫校

- ・文教エリアとしての一体感や公共施設エリアとの連携を意識した計画を行います。
- ・地域開放エリアと中庭を一体的に計画することで、学校生活の賑わいが地域ににじみ出るような豊かなオープンスペースを形成します。
- ・グラウンド、屋内運動場を積極的に開放し、地域や卒業生にも開かれた学校とします。
- ・敷地東側に屋内運動場を配置することで、生徒や近隣住民のプライバシーに配慮します。



社地域のシンボルとなる新しい小中一貫校

■ 社らしい地域景観の形成

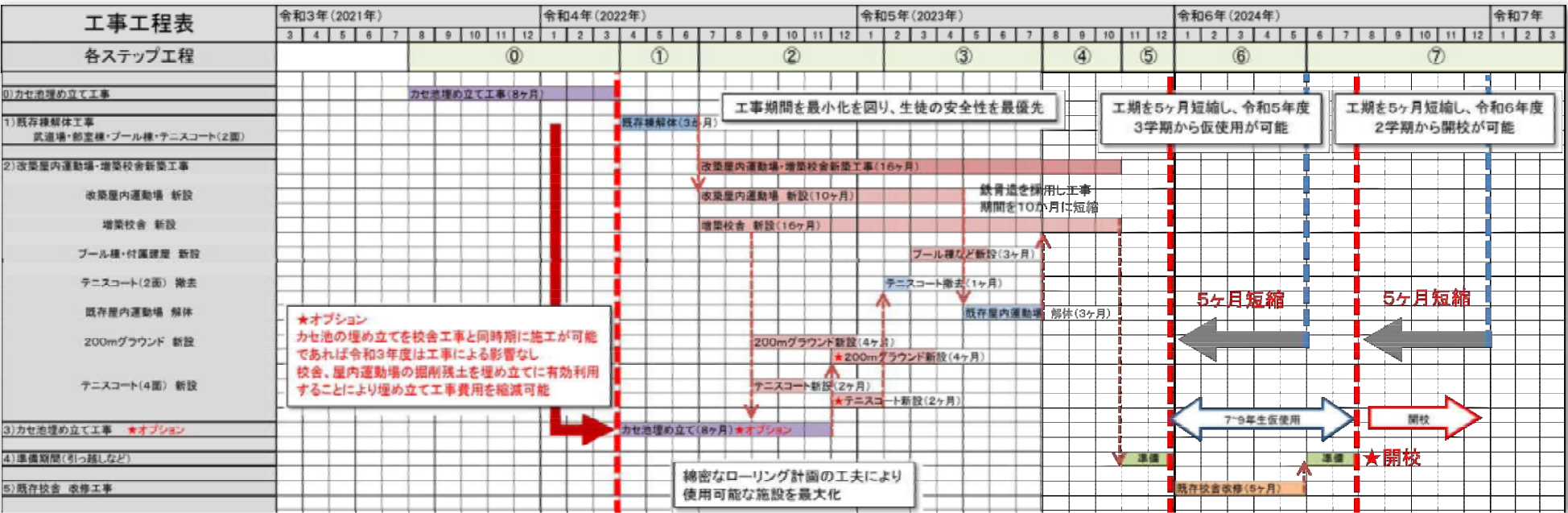
- ・佐保神社の門前町として発展した町に相応しく、神社建築らしい底や屋根の要素を取り入れ、社地域のシンボルとします。
- ・増築校舎は既存校舎の外観を踏襲することで、社中学校の歴史を継承し、地域景観の保全と卒業生の思い出を残します。

■ 美しい周辺環境との調和した開かれた学校

- ・現況に倣い、塀のない開かれた学校、文教エリアの一体感や緑豊かな自然環境と調和する景観デザインを行います。
- ・敷地内の緑地は、西側のサクラ、イチョウ、クスノキの並木道や状ヶ池公園のツツジと連続する計画とします。
- ・まちなみに潤いを与え、来校者をやさしく迎える設えとします。



工事工程表



工程計画

